

わんパト桜丘便り

WANWAN PATROL SAKURAGAOKA
Newsletter No76

201912.30



発行: 3月, 6月, 9月, 12月 (年4回)
NPO 世田谷桜丘まちづくり
「わんわんパトロール桜丘」部会

代表 久保田 静廣
TEL 090-8317-8027

<わんパト隊長からの一言>

会員のみなさん、こんにちは。

如何お過ごしですか、年の瀬も迫ってきました。一年間、わんわんパトロールをして頂きましてご苦労さまでした。有難うございました。愛犬を亡くされて思い出を懐かしんだ方、子犬を迎い入れてテンヤワンヤの方と会員の皆様の家庭にはそれぞれの営みがあったと思われます。

投稿原稿を投稿される方が最近見当たりません。どうぞ、どしどし投稿していただけると有り難いです。

来年も、ご指導、ご協力の程、宜しくお願い致します。良いお年をお迎えください。

今回も、「我が家の愛犬」は私(久保田)の投稿とさせて頂きました。

愛犬のRonが児童書に載り、その本が出版され、今日に至るまでの経緯を4ページ分で綴りました。

★ 各 警 察 署 か ら の お 知 ら せ

平成31年1月～令和1年11月度迄の累計犯罪件数

地区	自転車盗	車上狙い	空き巣	引ったくり	粗暴犯	詐欺
桜丘 一丁目	6	1	0	0	1	2
桜丘 二丁目	14	2	0	0	1	1
桜丘 三丁目	3	1	0	0	0	1
桜丘 四丁目	4	1	0	0	0	1
桜丘 五丁目	7	0	0	0	1	0
船橋 一丁目	39	1	4	0	2	1
船橋 七丁目	12	0	0	0	1	2
経堂 一丁目	20	0	0	0	3	2
経堂 二丁目	12	1	0	0	5	0
経堂 四丁目	13	1	3	0	0	1
経堂 五丁目	4	0	0	5	3	2
砧 二丁目	3	0	0	0	0	1
桜 一丁目	7	1	1	0	0	0
桜 二丁目	7	0	1	0	0	0
上用賀 四丁目	7	0	0	0	0	0

◆ 詐欺欄の数字は「オレオレ詐欺」を含む詐欺全般の数字

<お知らせ>

11月16日に古着・古布の回収をさせて頂きましたが、お陰様で桜丘小学校、笹原小学校、宇山神社の三ヶ所で回収した総重量は7.300kgとなりました。ご協力感謝いたします。次回は来年の5月、第3土曜日を予定しています。回収日の1か月前あたりに改めてお願い致しますので宜しくお願い致します。

ストップ温暖化

古着がごみとして捨てられ、焼却されて地球環境の汚染されることが少しでも食い止めるべく古着等の回収事業を行ってまいるので、ご協力、宜しくお願い致します。

愛犬RON、ノンフィクション児童文学の本の中に載りました
前編の「2代目のロンは捨て犬・保護犬でした。拙宅に迎え入れた経緯を綴りました。」に引き
続いて、時は過ぎ、本が出版されましたので、出版された経緯やその後のロンを綴りました
前編はRONのホームページ・<http://324wan.webcrow.jp/>に記載してあります。

青天の霹靂とはこのことを言うのかもしれませんが。3か月前(2019年6月)にノンフィクション児童文学作家(今西乃子先生)から電話が入った。Ronちゃんを児童文学本に載せることになりました、付きましてはノンフィクション本なので本の中では飼い主の実名、実齢、写真が記載される事になりますので同意を頂きたいとの依頼であった。確かに今西乃子先生はRonを保護者から譲渡して頂くにあたって仲介をして頂いた方で、Ronに関心を寄せていたことには理解できますが、まさかRonを本に登場させるとは驚きを隠しきれませんでした。本の中にRonを登場させる構想は何時頃からだったのだろうかと興味を抱きながら、今西乃子先生の依頼に即答した。宜しくお願ひしますと。本は完成した。第一刷出版は2019年9月16日。全国一斉発売された。

題名は「捨て犬・未来と どうぶつのお医者さん」

今西乃子「著」、浜田一男「写真」、出版社・岩崎書店 定価(本体1,300円+税)
出版直前に今西乃子先生から先生のサイン入りの完成された本が送られてきた。ハードカバーで艶々しく、ずっしりとした本、表紙をそっと開いて見るとグラビアページが4ページ続いて、4ページ目に五井動物病院の院長夫人と一緒に、照れくさそうに写し出されているRonがそこに居た。正しくRonが本の中に載っていた。本はノンフィクションだけに、Ronは本の中でどんな役回りを持ち合わせていて、持ち味をどのように捉えて登場しているのか興味津々であったが、少し心配な思いも募った。

本を読み進めていくと、シーザー犬・「太郎」が登場していた。保護されていた時のRonの名前が「太郎」だった事を初めて知った。本の後半では元の飼い主の投書から、元の飼い主は「レオ」と名前を付けていたことも初めて知らされたのである。拙宅で譲り受ける前のRonの変遷がかい間見えてきた。Ronは「レオ」→「太郎」→「Ron」と名前が変わって戸惑ったに違いない、長い間苦勞をしてきたなど、労わりの思いを馳せた。本文の中には「私の頭に、あのがさつなかあちゃんの顔がおもいうかんだ」と記されている箇所がある。言うまでもなく、私とは捨て犬・未来であり、がさつなかあちゃんとは、未来の飼い主でもあり作家自身でもある。作家は自分自身を本の中で「がさつ」と評している。私はがさつな人は、着飾る事も無くありのまま、素直で隠し事がない。ズバリ物が言えてブレない人であると思えてならない。作家は著書多数、児童書のノンフィクションを手がけるかたわら、小・中学校などで「命の授業」を展開している。今回、出版された本を70人余りの方々を紹介して購入してもらった。作家の存在は多

数の方々をご存じだった。子供が作家の本を読んで感想文を提出したら賞を貰ったのですよと教えてくれた方もおられた。本が出版され、久保田一家が本の中に載っている。皆さんに本の存在を知ってもらいたい、読んで頂きたいと思う反面、僭越ではないかとお薦めする事には躊躇もしたが、多くの方々に読書後の感想を聞いてみると、今回の本は子供達にいっぱい読んでもらいたいわね。又、複数の方から図書館に常備してもらう様に申請してきますねと話され、事実、実行していただいた。ある方からは、読み終わったので、マンションで犬を飼っているお宅で回し読みをしてもらう様に段取りしますよとメールを頂いた。又、本を読んで改めて気付かされたけれど、歳を取っているのだから先の事を考えろよと突き付けられてしまったよ。先の事を真剣に考える事にするよと、伝えて来られた方もいた。涙が出てしまったという方も多数おられた。本をお薦めして、購入して頂いたことに間違いはなかったようで安堵しています。

Ron は捨て犬だった。正式な誕生日は判らない。千葉県市原市の五井動物病院で保護された日は 2016 年 10 月 4 日。保護された 10 月 4 日を誕生日としています。今度(2019 年)の 10 月 4 日で、これまた推定ですが 12 歳となる。性格は従順で甘えん坊。抱っこが好きでその時が一番の安心感を得られているようです。普段、吠えることはありませんが、夢の中では何故か吠える事が出来るようです。夢の中では気遣うことなく自由で解放された素の自分がいるようです。NPO 世田谷桜丘まちづくりの部会の「わんわんパトロール桜丘」は会員数 101 世帯、114 匹で構成され、その 3 代目の隊長犬(初代は先代の Ron、2 代目はホッピー君)として毎日パトロールの任務を果たしています。

本は実話として記されています。時間を遡って、そこではどんなドラマがあって、どんな展開があったのか作家は事実の成り行きを検証しながら綴っています。私も本の中で登場する人物ですので、生き様を一部分ではありますが検証されたことになりました。作家はもとより、多くの方々の支えによって、本の中に私が、私の家族が生かされています。

国立国会図書館法により、国内で出版されたすべての出版物を、国立国会図書館に納入することが義務付けられています。納本された出版物は、「現在と未来の読者のために、国民共有の文化資産として長く保存され、日本国民の知的活動の記録として後世に継承されます。」とされています。

やり直しがきかない所まで来た人生、終焉も近付いていることを認識して余生を全うしようと思っています。

Ron が拙宅の家族の一員になったのは 9 歳の時です。初めての日、拙宅のリビングに腰を下ろして周りを見渡し、神妙に様子を伺っていました。その時の Ron の心境は計り知

ることは出来ないが、不安であった事は間違いないと思われます。家族の一員になって数日後、Ron は自分の寝床の位置・場所を決めたようです。場所は Ron パパの掛布団の足の先端。一度捨てられた思いが強いのかも知れません。寝ていたにしても、Ron パパが寝室から抜け出す時に足の動きを直ぐに感じ取れる場所を確保したのかも知れません。Ron が寝ている事を確認して、夜中にトイレに行き、トイレから出て来るとドアの前に Ron が座っている始末です。フレンドリーではあるが、慎重で、誰かが移動する時に見通せる位置にいないと不安でしょうがない。朝、夕のパトロールする時、家族は何時も全員一緒でないといけないのだと、家族を誘って出かけます。家族を慕う心意気を Ron から教えられています。Ron は「ワン」と吠える事は滅多にありません。意思を伝える時には「フゥ〜ン、フゥ〜ン」と甘え声で、見上げて人の目を見て訴えます。こちらを見上げて目を見て訴える事は、コミュニケーションの一環であり、信頼関係が成立しているのかも知れません。特に夜の7時過ぎになるとそばに寄って来て、大きく目を見開いて訴えます。「寝ようよ」「一緒に寝床へ行こうよ」と。誰かが一緒でないと寝る事が出来ません。寝床に入っても慎重で Ron が先に眠る事はありません。一緒に寝る者が布団の中に確りと入り、枕に頭をつけた事を確認し、間違いなく眠ったなど見届けてから顔を布団に伏せて眠りに入ります。Ron を私の家に送り出す時に院長夫人は Ron にこう言ったと伝え聞いています。行った先の家族に何かが在ったらどこまでも守るのですと。健気な行動は院長夫人の送り出す時の言葉から始まったのかもしれない。

大切なお客様が来訪されると云う日、朝から降っていた雨も止み、2019年11月27日、午後2時に千葉県にお住いの、作家の今西先生と五井動物病院の田口院長夫人のお二人が拙宅を来訪された。実は本が全国発売される1週間前の9月10日に来訪される予定でしたが、台風の襲来かあって訪問は延期となっていました。

最寄り駅、小田急線の経堂駅にお迎えに行き、久しぶりの再会を果たせて懐かしさを隠しきれなかった。徒歩10分程で拙宅迄道案内をしました。

玄関を開けると Ron が飛び出てきた。お二人を見るなり、その歓迎ぶりはただ事ではなかった。心の底から湧き出る歓喜、お二人にぶつかって行った。本当の素直な気持ちの表現とは、恥じらいもなく全てをぶつけて行く事だと思い知らされました。何時にないはしやぎ方、最大限の歓迎をしていた。Ron も嬉しいが、お客様をも喜ばせる術を Ron は知っている様だ。談笑・車座になって、Ron の存在意義についての話が弾んだ。本の目次の中に「捨て犬の縁結び」という項目がある。今回の出版された本を介してさらなるご縁が広がっている話である。作家の目的・視点の中に読者は引き寄せられて、誰かと、あるいは何かと縁を結びつけたくなる衝動に駆られる。作家は力量発揮して、人々・読者に対して目的意識を持たせる重要な役割を担っている。この児童文学本を読んだ人達は、この本は公共の図書館に、学校図書室に常設しなければと、行動に駆り立たせた話もあった。

作家を含めて本に登場する人物達は、元々は縁も所縁も無かったが一冊の本の中では縁

で結ばれている。それぞれが持ち合っていた結びつける原動力があったからであろう。その原動力とは、それぞれの願い事であり、希望であり、それを何処かで実現しようとする意志を持ち合っていたことに間違いのないと思う。結ぶ事が実現出来たのだから、意志と言うよりは信念に近い原動力をそれぞれが持ち合っていたのかも知れません。

お互いにそれなりの歳を取って来ました。Ron の犬生は波乱な犬生でしたが、この先どんな事が在っても Ron にとって我が家が終の棲家であって欲しいと願っています。多くの人々と、そして小さな家族に支えられて来た人生がここにあります。Ron に癒されている人生、深く刻まれてここにあります。残された人生、どんな形でも良い、何時でも良い、何処でも良い、恩を少しでもお返し出来ればと心掛けています。

明日の朝も何時もの様に Ron に号令を掛けます。「おう〜い パトロールに行くぞ」。
Ron、尻尾をフル回転させて、廊下の床の上に足音を響かせながら、玄関先に一目散で駆けつけて来る筈です。12 歳、初老だけれど・・・・

※2019, 11, 30 付 朝日新聞夕刊に出版に合わせて港区立高輪図書館で先生の講演会が開かれると記事になっていた。

※2019, 10, 3 記。2019, 11, 30 加筆、追記。文責＝Ron パパ・久保田

出版された本の表紙



バンダナNo.1 Ron



向かって右側・今西先生、真ん中・田口院長夫人、左側・Ron ママ

